

ブックちゃんの

2015年3月24日

# ふじのみや探検

第15号 村山浅間のひみつ



発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284

## ひみつ1 村山浅間神社は、いつできたの？

村山には、平安時代から人が住んでいました。それは、住居のあとや土器が発見されたことでわかってきました。

平安時代の終わり、末代上人は、富士山頂に大日寺をたてました。また村山には、興法寺を作りました。これが村山浅間神社の始まりです。あれ？お寺と神社はちがうじゃないの？あなたがそう思うのは当然です。今は、どこでもお寺と神社は、別ですね。でも平安時代は、神仏習合といって、仏様と神様は仲よくやっていました。たとえば、富士山を仏様でいうと大日如来、神様でいうとコノハナサクヤヒメとなります。二つは同じものです。ですから、お寺と神社が同じ土地の中にありました。

じつは、村山浅間神社は、今でもこの形を残している、めずらしいものといえます。みなさんが、村山浅間神社に歩いていくと、階段が二つあります。右の階段を上っていくと、大日堂に出ます。左の階段を上っていくと、村山浅間神社に出ます。おもしろいですね。

明治に入り、神仏分離令（＝仏様と神様は別ですから一緒にしてはいけませんという法律）が出された後も大日堂は、こわされず、今もその姿を残しています。



富嶽三十六景 田子の浦

## ひみつ2 末代上人は、何をしたの？

末代上人は、平安時代の人です。駿河の国（＝静岡県）に生まれました。伊豆の十国峠の近くに住んで、山々を歩き修行をしていました。峠からは、ほら、こんなに富士山がきれいに見えます。

末代上人は、朝夕ながめる富士山に、登ってみたいと思いました。



上人は、富士山に登りだすと、その、魅力に取りつかれ、何度も、何度も登りました。いったい何回登ったと思います？

300回以上登りました。まさに、スーパーマンですね。

富士山を修行の山とした、末代上人は、山頂に大日寺を村山に興法寺をたてました。自分は、富士山を守る神様、大棟梁権現となりました。

### ◇ことばの説明

○平安時代・・・桓武天皇が、京都（＝平安京）に都を移してから、鎌倉に幕府ができるまでの390年間をさします。

○十国峠・・・むかしの国の名前、伊豆・駿河・遠江・甲斐・信濃・相模・武蔵・上総・下総・安房10か国が見渡せたことから名前がつけました。

○大日寺・・・大日如来という仏様をおまつりするお寺。



末代上人と伝えられている絵

## ひみつ3 修験者は、なにをする人なの？

修験者は、富士山と、あなたを結ぶ人です。うーんそういわれてもよくわからないね。では、もう少しくわしくみてみましょう。修験者は、何日も富士山に入って修行し、富士山の持っている力を自分の中に取り入れます。昔から富士山は、パワースポット（＝霊験所）なんだね。

その力を使って、あなたに加持祈禱をします。すると、あなたは、一年間、病気もしないで、元気にすごせます。修験者は、富士山（＝天）とあなた（＝地）を結ぶ電線みたいなものです。富士山の持っている力をあなたに分け与えるのが、修験者です。そうすると、末代上人も、修験者ってことですね。修験者は、山に伏して修行したことから、山伏ともよばれています。

室町時代になると、村山には村山三坊といわれるお寺ができました。たくさんの方が、村山から富士山に登るようになりました。

### ◇ことばの説明

○山に伏して・・・富士山に入り、寝泊りすること。

○加持祈禱・・・あなたに良いことが起こるようにお祈りすること。

○村山三坊・・・大鏡坊・池西坊・辻之坊のことです。登山者（＝道者）は、ここにとまり、修験者といっしょに富士山に登りました。



修験者のいしょう

## ひみつ4 村山登山道は、どこを通っていたの？

村山登山道は、村山浅間神社の西側を登ります。

札打場ふだうちば（＝持ってきた神社の札を打ちつける所）をすぎたら中宮八幡ちゆうぐうはちまんにお参りします。

そこから、女人堂にょにんどうに出ますが、女の人は、ここから富士山おがを拜おがんで帰ります。笹ささごり・御室おむろと歩いていくと、まわりには、はい松などの低い木しか生えていません。

今の新6合目からは、現在の登山道と合流します。

明治39年（1906）に新しい登山道ができてからは、村山登山道は、百年以上使われなくなりました。

みなさんの力で、村山登山道が復活ふっかつするといいいですね。



村山登山道

## まめ知識 富士高砂酒造には、仏様があるよ。

今から141年前、明治7年（1874）の7月26・27日に、富士山にある仏像ぶつぞうは、すべてこわされたり、富士宮におろされたりしました。

なぜ、そんなことになったのでしょうか？

明治政府は、神道しんどうを中心にした政治を行いました。いままで、神様と仏様は、いっしょにいましたが、これからは、別にしなくてはいけないという、法律ほうりつを作りました。富士山は神様の山だけになり、仏様はいられなくなりました。富士山におさめられていたすぐれた仏像は、すてられ、なくなっていました。

これは大変と、富士宮の人は、強力ごうりきをやとい、大切な仏像は富士宮に運びました。高砂酒造では、酒蔵の2階に8体の仏像をおさめました。これらの薬師やくし如来にょらい・月光菩薩げっこうぼさつ・日光菩薩にっこうぼさつなどをみると金属きんぞくでできています。木では、富士山のきびしさにたえられないのでしょうか。

大頂寺だいちょうじやかぎや薬局やくきょくにも大切に保存されています。

## ◇ことばの説明

○神道・・・日本に昔からある教え、自然と神は同じと考え、たくさんの神様がいます。

○強力・・・山に登る人のため、重い荷物を持って、手助けする人。



げざんぶつ  
下山仏



ふじさんけいまんたら  
富士参詣茶羅



だいにちによらい だいちょうじ  
大日如来 (大頂寺)



村山浅間神社



大日如来

◇『第15 村山浅間のひみつ』は、次の資料をもとに作りました。

- 1 『富士宮市史』 下 富士宮市史編纂委員会／図書印刷 1986
- 2 『富士の研究Ⅱ 浅間神社の歴史』 浅間神社社務所 1929
- 3 『村山浅間神社調査報告書』 富士宮市教育委員会／マグナプロセス 2005
- 4 『富士宮市歩く博物館ガイドブック』 富士宮市教育委員会／三扇美術 2009
- 5 『富士山村山口登山道跡調査報告書』 富士宮市教育委員会／フジ印刷 1993
- 6 『富士山登山道表口茂良山』 赤野竹司／緑星社 1993
- 7 『目で見る富士宮の歴史』 遠藤秀男／緑星社 1977
- 8 『富士宮歴史散歩』 遠藤秀男／緑星社 1980
- 9 『福地区誌』 富士宮市福地区／緑星社 1993
- 10 『あしなか』 第百九輯 山村民俗の会 1968

